

令和4（2022）年度第4回那須塩原市地域公共交通会議 会議結果概要

1 開催日時

令和5（2023）年2月2日（木） 午後2時30分から午後4時00分まで

2 開催場所

那須塩原市東那須野公民館 多目的室

3 出席者

地域公共交通会議委員 17人（19人中）

公共交通アドバイザー 1人

事務局ほか 7人

4 傍聴者

なし

5 議事

【報告事項】

(1) 令和4年度那須塩原市地域バス運行実績について

令和4年度的那須塩原市地域バスの運行実績について、12月末までの利用者数や利用者一人当たりの公的負担額等について報告を行った。

【協議事項】

(1) 第2次那須塩原市地域公共交通計画案のパブリックコメントの実施結果について

令和4年11月21日から令和4年12月19日まで実施した第2次計画書案のパブリックコメントについて、実施概要と提出のあった26件の意見への回答及び計画書への反映について協議を行い、原案のとおり承認された。

〔主な意見等〕

- ・ ドア to ドア型のデマンド交通を整備することで、公共交通の抱える課題が全て解決する訳ではない。これからの高齢者の移動手段の確保について、みんなで一緒に考えていくことが大切である。

(2) 第2次那須塩原市地域公共交通計画の策定について

令和5年度からの「第2次那須塩原市地域公共交通計画」について、パブリックコメント後の最終計画書案の協議を行い、原案のとおり承認された。

[主な意見等]

- ・ 公共交通というものをどこまで重要な位置づけとして、市民と共有するかという事がある。新湯線などは、乗っている人には重要で、乗っていない人は関係ない状況にある。デマンド交通がドア to ドアである意識はある意味当然であり、自家用車でどこでも行けるという認識になっている。これからの世界、私たちは高齢化社会の中で、温暖化対策にも立ち向かわなければならない。多極ネットワーク型コンパクトシティを那須塩原市は目指しているかもしれないが、わが国は個別分散型で、ドア to ドアで、一家に1台車があるのが最適であるという世界にしてしまった。公共交通自身も先細らざるをえないのは当たり前である。特に世界の観光客は、より地球温暖化対策を意識して、世界を観光する方が増えている。観光客から公共交通の運賃収入を確保することが有効である。
- ・ 外国人観光客を含めてだが、AI的な活用の仕方がもっと進んでいけば、もっと公共交通が利用しやすくなるのではないかと。外国人観光客が、公共交通をサクサクと利用しやすいというようなプラットフォームからスタートさせるのもよいのではないかと。

(3) 令和5年度地域バス無料乗車イベント等の実施について

公共交通の利用者の拡大を図ることを目的として実施している地域バス無料乗車イベント等について、令和4年度における実施結果の報告と、令和5年度の実施案について協議を行い、原案のとおり承認された。

[主な意見等]

- ・ とちぎ国体の開催に伴い無料乗車イベントを体験した。率直に申し上げると、非常に快適であった。乗り継ぎも比較的スムーズにいき、やはり地球温暖化対策を含めて、公共交通を大いに利用するべきと実感した。一方で、ゆーバスとゆータクのPRが足りないのではないかと感じ、公共交通利用は、地球温暖化の対策にもなるので、気象変動対策局と連動しながらのPRが必要ではないかと。
- ・ 高校一日体験乗車が数年続いていて、多くの方に利用されているが、高校一日体験乗車を利用した人が進学してからゆーバスの定期券を買ってくれているのか追跡調査が必要ではないかと。栃木県では、県北エリアが高校生のバスの通学の分担率が一番高いことがわかったので、こういう地道な取り組みが、成果に結びついているという話になれば、県にとってもいい話なので、その辺をウォッチして頂けるとすごく良い。

(4) 令和5年4月の地域バスダイヤ改正について

ゆーバス西那須野線について、令和5年4月1日改正予定の運行ダイヤ案の協議を行い、原案のとおり承認された。

[主な意見等]

- ・ 特になし

(5) 令和4年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

ゆーバス西那須野線を対象とした令和4年度地域公共交通確保維持改善事業について、令和3年10月から令和4年9月までの計画事業の実施結果の評価について協議を行い、原案のとおり承認された。

〔主な意見等〕

- ・ これから先を考えた場合に、利用者が減少していく中で、公共交通の運行経費を交通事業者が負担するのか、市税で負担するのかという問題に行き当たる。地方全体が今後より厳しい状況に突入するなかで、国に対して強い要望を出さなければならない。
- ・ 公的負担や受益者負担の話が出たので意見をするが、全般的に言えるのは、弱者を公的に救済しようという動きが盛んで、公共交通についても確かにその通りだと思う。弱者については公的資金で負担して頂いて、高齢者でも生活水準に応じてそれ相応の負担をして頂く方が良いのではないかと。持続可能な公共交通を作るためにはその方が良い。
- ・ 令和4年度の国の予算は1200億円が公共交通の補助金で、5年前は300～400億円だった。初めて1000億円を超えたということで、今までにない状況である。事業者との契約の請け負わせ方が変わることによって、場合によっては国の補助金を優位に獲得することができる可能性が開かれつつあるので、そういった情報を仕入れていく必要がある。

(6) その他（意見交換等）

- ・ 広域交通マップについて、ゆータク・ゆーバスの路線マップは日常的に市民の目に触れることがほとんどなく、せっかくマップを作製しても利用されていないので、全戸配布などテコ入れをしてもらいたい。ゴミ出しカレンダーと同じくらいにいつも見るような事になればいいのではないかと感じている。

【その他（連絡事項）】

- ・ 特になし